



HIROSAKI
UNIVERSITY

ACCESS MAP



JR弘前駅からのアクセス

※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。

- (1) 徒歩：約20分
- (2) バス：約15分(駅前3番のりば乗車、弘前大学前下車)
- (3) タクシー：約 5分

令和7年度 弘前大学大学院 地域共創科学研究科

Graduate School of Sustainable Community Studies 2025

地域リノベーション専攻

産業創成科学専攻



国立大学法人
弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
TEL.0172-36-2111(代表)

人文・地域研究科教務グループ TEL.0172-39-3960
メールアドレス jm3960@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学ホームページ

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前大学入試課ホームページ

<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>



社会学 × 工学
農学 × 経営学

HIROSAKI UNIVERSITY

研究科長メッセージ



弘前大学大学院
地域共創科学研究科長
小岩 直人

日本の地域社会は人口減少、少子高齢化、若者の域外流出、労働力不足など多くの社会問題に直面しています。地域社会をいかに力強く持続させていくかが大きな課題となっています。

地域共創科学研究科は、このような地域の課題に取り組むべく、令和2年4月に誕生した新しい研究科です。取り組む観点として「地域を守る」、「地域から攻める」を挙げました。地域リノベーション専攻は、地域を守るうえで重要な社会学と工学を軸に、産業創成科学専攻は、地域から攻めるうえで重要な経営学と農学を軸に、高度な専門性と俯瞰性を兼ね備えた人材を育成します。

私たちは「共創」という言葉に、ふたつの意味を込めました。ひとつは文理共創です。地域共創科学研究科では、文系と理系の大学院生が、それぞれの専門性を意識しながら、協力して課題に取り組み、新しい価値の創造を目指します。これは、ひとりの人間のなかに文系と理系の素養を融合させようとする文理融合とは異なる考え方です。私たちは、さまざまな分野の専門家が、刺激し合い協力しあうことを重視しました。なぜならば、複合的な地域の課題は、ひとりの超人のみによって解決できるものではなく、さまざまな専門分野の力を結集し、多角的に取り組むことによってしか解決できないからです。

ふたつ目は域学共創です。大学院生や大学教員が地域の専門家等と共に、地域の現場が抱える課題を理解し、互いの専門知や実践知を尊重しながら新たな価値の創造を目指します。地域には多様な人々が暮らしており、地域課題を解決するには、多くのステークホルダーの意見を取り入れたり、対話を重ねたりする必要があります。また行政関係者や企業家、地域のNPOや専門家との協働も欠かせません。

皆さんが、地域共創科学研究科で専門性ととともに俯瞰性を鍛え、異分野の専門家や地域の実践者と共創すれば、地域社会の未来は必ず拓かれると確信しています。

INDEX

研究科長メッセージ	1
理念・専攻・3つのポリシー	2
地域リノベーション専攻	4
産業創成科学専攻	6
研究環境、社会人支援制度	8
大学院で学ぶために必要となる主な経費、学費・奨学制度	9
入学試験	10
新入生の声	11
在学生の声	12
研究紹介	14
修了生の声	16
就職支援、進路状況	17



地域共創科学研究科

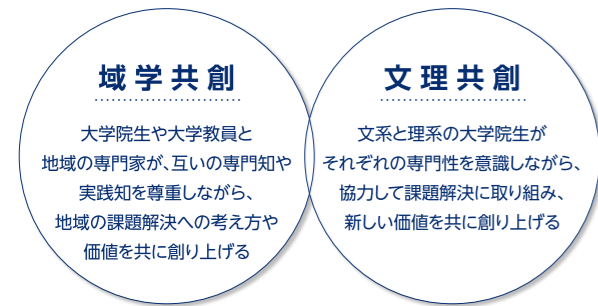
Graduate School of Sustainable Community Studies

人口減少が進む日本の地方では、コミュニティの維持や産業の発展が困難な状況にあります。地域共創科学研究科は、この現状を打破するために、大学の専門的な知識と地域社会が持つ実践的な知識を交差させ、新しい価値を共に創造することを「地域共創」と位置づけ、地域共創を科学する研究科を目指します。

理念

地域共創科学研究科における“共創”

それぞれに研究分野を持つ学生が、互いの専門性を尊重し合い、新たな価値を創出すること。



専攻

地域リノベーション専攻

社会学と工学を中心に、地域づくり・防災・自然エネルギーの活用などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域を守る」方法を構想します。

産業創成科学専攻

農学と経営学を中心に、農水産物の高付加価値化や商品流通などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域から攻める」方法を構想します。

3つのポリシー

地域共創科学研究科

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

1. 教育理念・目標

本研究科では、社会科学・工学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と研究領域の垣根を越えた俯瞰性を兼ね備えた高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成する。

2. 求める学生像

学士課程等で修得してきた分野の基礎的な知識のほか、地域の特性や課題を理解しながら、異分野にも興味関心を持ち、課題解決等に向け実践的に取り組む意欲と行動力のある者。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 域学共創に必要な基礎スキルの修得

スキル科目 共創の基盤となる、エビデンスに基づいた地域社会の把握や、知的財産を活用した価値創出を学修する。

2. 専門性と俯瞰性を修得

専攻科目 共創の基盤となる専門性と俯瞰性を身に付けるため、異分野にまたがる専攻科目を設定。

3. 域学共創・文理共創に資する能力の修得

地域共創科目 異分野の専門家からなるチームが協働することの重要性を理解し、協働による地域社会の機能維持や産業発展に資する計画を立案し、実行することで新たな価値を創造(共創)する力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

■地域社会の未来について、専門的・俯瞰的知識を用いて、より良い在り方を構想できる力の修得

■地域の課題解決のために、さまざまな分野の構成員からなるチームを自ら組織し、フロントランナーとして先頭を立てて運営できる力の修得

■地域社会の機能を持続的に維持したり、地域社会の礎となる産業を発展させたりする計画を立案し、粘り強く実施することで新たな価値を創造(共創)できる力の修得

地域リノベーション専攻

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

- 地域の特性や潜在的な資源等を深く理解し、地域を支える機能の維持や再生に必要な(社会学または工学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に地域の未来を構想し、その実現にむけて実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域社会の機能を維持し再生するために、地域の専門家や多様なステークホルダーと協働しながら、組織的に課題を解決する意欲のある人

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

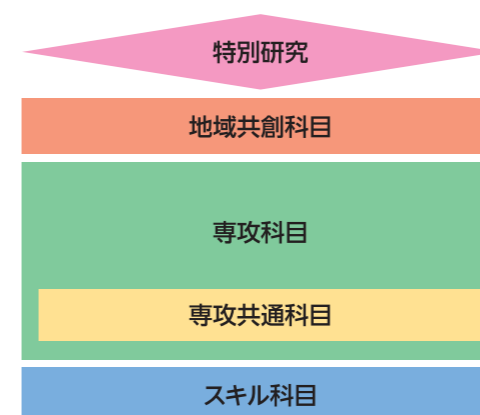
- 地域の特性や潜在する資源を活用し、地域社会の機能を維持し再生する方策を構想できる力を育成するために、専攻科目として社会学や工学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 異なる分野の研究者や地域の専門家と共創することの重要性を理解し、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻共通科目として「地域リノベーション特論」を置きます。
- 地域を支える機能を維持し再生するために立案した政策や計画を多面的に評価できるように「政策・事業評価演習」を置きます。
- 持続可能な地域の未来を構想し、その実現に必要な政策や計画を論理的・体系的に考える能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

- 社会学や工学などの専門的・俯瞰的知識を用いて地域の特性や潜在する資源を的確に把握し、持続可能な社会へと機能転換する方策を意欲的に構想できる力を身に付けていること。
- 持続可能な地域社会を共創によって実現するために、自らの専門と異なる分野の研究者や地域の専門家を含めた体制を構築し、フロントランナーとして先導的に運営できる力を身に付けていること。
- 多様なステークホルダーの意見などを総合しながら、地域に密着した政策や計画を立案することで新たな価値を創造(共創)できる力と、その効果を多面的に評価できる力を身に付けていること。

カリキュラムの特徴

本研究科では、社会科学・工学・農学の科目を幅広く学びながら専門性と俯瞰性を高め、地域共創を先導する人材に必要な資質や能力を身に付けるため、「スキル科目」、「地域共創科目」、「専攻科目」、「特別研究」の4つの科目区分を設定しています。



修了要件

科目区分	単位数	要件
◆スキル科目	2単位	必修2科目2単位
◆地域共創科目	4単位	必修2科目4単位
◆専攻科目	16単位	必修2科目(専攻共通科目)4単位、 選択必修12単位
◆特別研究	8単位	選択必修4科目8単位
計	30単位	

地域リノベーション専攻



■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
コミュニティデザイン	修士(地域共創社会学)
レジリエンステクノロジー	修士(地域共創工学)

■人材育成

『地域を守る』 高度専門職業人の養成

社会科学・工学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域を守る」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

■想定している進路

- ・ 国の機関
- ・ 地方自治体(行政職・技術職)
- ・ その他NPO団体
- ・ コンサルタント業
- ・ シンクタンク
- ・ 地域貢献型企業
- ・ 地域密着型企業
- ・ 電気/ガス/熱供給/水道業
- ・ 建設業
- ・ 保険業
- ・ エネルギー関連業 など

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

◎授業科目

〈地域共創科目〉

- 必修科目**
- ・ 地域共創特論
 - ・ 地域共創演習

〈スキル科目〉

- 必修科目**
- ・ 地域データ解析特論
 - ・ 知的財産管理特論

選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることによって、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

◎授業科目

必修科目

- ・ 地域リノベーション特論
- ・ 政策・事業評価演習

選択必修科目

- ・ 地域調査演習
- ・ 地域研究特論
- ・ 生態人類学特論
- ・ グループ・ダイナミクス特論
- ・ 社会心理学演習
- ・ メディア社会学特論
- ・ 家族社会学特論
- ・ 都市社会学特論
- ・ 地域社会学演習
- ・ 応用社会学特論
- ・ 都市・農村計画特論
- ・ 社会教育特論
- ・ 人文地理学特論
- ・ 社会教育演習
- ・ コミュニティデザイン演習
- ・ 地域での臨床発達支援
- ・ 地形環境学特論
- ・ 防災地質学特論
- ・ 環境影響評価特論
- ・ 地理情報解析特論
- ・ 生物多様性保全特論
- ・ 地盤震動工学特論
- ・ 防災構造工学特論
- ・ バイオマスエネルギー特論
- ・ エネルギー気象学特論
- ・ 風力エネルギー工学特論
- ・ 複合災害を考える
- ・ 電磁エネルギー工学特論
- ・ 地形プロセス学特論
- ・ 地殻変動・測地学特論
- ・ レジリエンス科学特別演習

特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

◎授業科目

選択必修科目

- ・ コミュニティデザイン特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ コミュニティデザイン特別研究ⅡA・ⅡB
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究ⅡA・ⅡB

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

- ・ 専門社会調査士

■履修モデル

〈研究テーマ例〉自然エネルギーの導入による地域経営の自立化			〈学位〉修士(地域共創社会学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	インターンシップB 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 地域調査演習 地域研究特論	バイオマスエネルギー特論 応用社会学特論 社会教育演習 コミュニティデザイン演習	地域協同組合論
特別研究	コミュニティデザイン特別研究ⅠA・ⅠB		コミュニティデザイン特別研究ⅡA・ⅡB

〈研究テーマ例〉産学連携を通じた地域防災の推進			〈学位〉修士(地域共創工学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 グループ・ダイナミクス特論 防災地質学特論	防災構造工学特論	レジリエンス科学特別演習 産学連携学特論
特別研究	レジリエンステクノロジー特別研究ⅠA・ⅠB		レジリエンステクノロジー特別研究ⅡA・ⅡB

■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
コミュニティデザイン	曾 我 亨	生態人類学, 地域研究	白 石 壮一郎	地域研究, 社会学
	羽 淵 一 代	メディア文化論, 文化社会学	古 村 健太郎	心理学
	増 山 篤	地理情報システム	花 田 真 一	政策の定量評価
	日比野 愛子	社会心理学	李 秀 眞	社会学
	高 瀬 雅 弘	社会学	越 村 康 英	社会教育学
	増 田 貴 人	地域子育て支援, 臨床発達心理学	土 井 良 浩	地域計画学
	平 井 太 郎	社会学	松 井 歩	人文地理学
	近 藤 史	地域研究, 環境社会学	泉 直 亮	生態人類学, 地域研究
レジリエンステクノロジー	小 岩 直 人	自然地理学	上原子 晶 久	土木建築工学
	長 南 幸 安	化学	島 田 照 久	エネルギー気象学
	梅 田 浩 司	応用地質学	道 家 涼 介	測地学, 変動地形学, 地震地質学
	官 国 清	バイオマスと材料化学	若 狭 幸	自然地理学, 地球熱利用総合工学
	久保田 健	電気工学, 流体機械工学, 風工学		

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。
<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



産業創成科学専攻



■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
食産業イノベーション	修士(地域共創農学)
グローバルビジネス	修士(地域共創経営学)

■人材育成

『地域から攻める』 高度専門職業人の養成

社会科学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域から攻める」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

■想定している進路

- ・ 製造業(食品関係)
- ・ 複合サービス業(農協、観光関係等)
- ・ 国際流通小売業
- ・ 商社
- ・ コンサルタント業
- ・ ソーシャルビジネス
- ・ 起業 など

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

◎授業科目

- | | |
|---|---|
| 〈地域共創科目〉
必修科目
・ 地域共創特論
・ 地域共創演習
選択科目
・ インターンシップA
・ インターンシップB | 〈スキル科目〉
必修科目
・ 地域データ解析特論
・ 知的財産管理特論
選択科目
・ 地域産業創成特論
・ 共創価値創出演習 |
|---|---|

専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることによって、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

◎授業科目

必修科目

- ・ 地域産業創成特論
- ・ 共創価値創出演習

選択必修科目

- ・ 食品栄養科学特論
- ・ 食品工学特論
- ・ 食品機能生理学特論
- ・ 園芸植物機能学特論
- ・ 地域産物活性化特論
- ・ 食品副産物資源の飼料利用特論
- ・ 植物遺伝資源栽培特論
- ・ 非破壊分析特論
- ・ 食料科学特論
- ・ 食品利用科学特論
- ・ 食料科学演習
- ・ ベンチャービジネス特論
- ・ コミュニティビジネス特論
- ・ グローバルビジネス特論
- ・ プロダクトデザイン特論
- ・ 地域イノベーション特論
- ・ 経営情報分析特論
- ・ 中小企業特論
- ・ 農産物輸出ビジネス特論
- ・ 国際食品マーケティング特論
- ・ 食品循環流通学特論
- ・ 地域協同組合論
- ・ 国際フードビジネス特論
- ・ 国際農業開発特論
- ・ 産学連携学特論
- ・ 会計応用分析特論
- ・ 食サイエンス特別演習

特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

◎授業科目

選択必修科目

- ・ 食産業イノベーション特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ 食産業イノベーション特別研究ⅡA・ⅡB
- ・ グローバルビジネス特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ グローバルビジネス特別研究ⅡA・ⅡB

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

- ・ 食の6次産業化プロデューサー LEVEL3 (国家戦略・プロフェッショナル検定)

■履修モデル

〈研究テーマ例〉 地域の特性にあわせた機能性食品の開発		〈学位〉 修士(地域共創農学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 食品栄養科学特論	食サイエンス特別演習 地域研究特論
特別研究	食産業イノベーション特別研究ⅠA・ⅠB	食産業イノベーション特別研究ⅡA・ⅡB

〈研究テーマ例〉 加工食品の高付加価値を実現するビジネスモデル研究		〈学位〉 修士(地域共創経営学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 農産物輸出ビジネス特論	グローバルビジネス特論 国際食品マーケティング特論 地域産物活性化特論 プロダクトデザイン特論
特別研究	グローバルビジネス特別研究ⅠA・ⅠB	社会心理学演習 グローバルビジネス特別研究ⅡA・ⅡB

■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
食産業 イノベーション	勝川 健三	花卉園芸学	津田 治敏	畜産物利用学
	岩井 邦久	食品機能科学	前多 隼人	食品科学
	佐藤 之紀	食品物性機能制御学	永長 一茂	生体防御学, 分子生物学
	中島 晶	食品安全生理学	西宮 攻	水産科学
	中井 雄治	農芸化学	谷本 憂太郎	食品利用科学
	島田 透	化学	房家 琛	畜産学
	君塚 道史	食品工学	林田 大志	農学
	西塚 誠	食品化学物質安全学, 疾患生物学	山元 涼子	農芸化学
	樋口 智之	農芸化学	泉 ひかり	水産科学
グローバル ビジネス	大橋 忠宏	交通政策, 地域科学	高島 克史	経営戦略論, 起業論
	森 樹男	国際経営論	大倉 邦夫	企業社会論
	黄 孝春	農産物貿易	佐藤 光輝	プロダクトデザイン
	泉谷 真実	食品循環流通経済学	柳 京熙	農業経済学
	石塚 哉史	食料経済学	佐藤 孝宏	国際農業開発論
	成田 拓未	国際食品マーケティング論	石本 雄大	国際フードビジネス論
	佐々木 純一郎	地域ブランド論	高野 涼	農村社会学, 森林政策学
	内山 大史	付加価値創造科学		

教員紹介の詳細はこちらをご覧ください。
<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



研究環境

〈大学院生室など〉

大学院生が利用できる院生室として、グループワークやディスカッションなどでの活用を目的とした「コ・ワーキング(共創)」型1室と、授業の準備や論文執筆、学会資料の作成など静かな環境で自修できる「スタディ(自修)」型2室の、合計3室あります。また、実験室や演習室など研究に必要な環境が完全に整っています。



〈研究支援制度〉

大学院生の研究を支援するために、院生室にコピー機を設置しており、研究のために必要な文献の複写等で利用することができます。

〈相談員制度〉

大学院生の疑問や悩みに対応するために相談員制度があります。相談員は、相談者のプライバシーが保たれるよう、また、不利益が生じないように配慮しつつ、関係各所と連絡・協議して、問題解決にあたります。

授業科目、研究指導、成績評価に関する疑問・質問・苦情、メンタルヘルスやハラスメントに関する悩み、その他研究生活全般に関する事柄について相談を受け付けています(相談者のあらゆる不安に応えられるよう、研究科だけでなく全学の相談窓口も設けています)。

また、専門の学生相談員・ハラスメント相談員を設け、授業や生活に関する相談のほか、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどに関する苦情を受け付けています。

深刻・重大な問題が生じた場合も、本研究科または弘前大学が責任をもって対応します。

社会人支援制度

〈教育方法の特例制度〉

社会人学生への特例として、正規の授業時間帯以外の時間帯等に授業または研究指導を受けることが可能な場合があります。希望者は、担当教員と事前に相談してください。

〈長期履修制度〉

2年分の授業料で、最長4年間かけて研究に取り組むことができます

社会人の方の就学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図るために長期履修制度を実施しています。この制度の適用対象者は、職業を有している者(自営業、臨時雇用、非常勤等を含む)で、認定された方は2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます。

■通常の学費(2年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	535,800円(年額)×2年間

■長期履修制度(4年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	267,900円(年額)×4年間

大学院で学ぶために必要となる主な経費

◎検定料 ◎入学料 ◎授業料 ※改定となる場合があります

検定料	30,000円	入学料	282,000円	授業料(年額)	535,800円
-----	---------	-----	----------	---------	----------

※入学料に改定があった場合は、改定後の入学料が適用されます。
※授業料は、原則として前学期・後学期に分割し、それぞれ267,900円を5月と10月に徴収します。
※授業料に改定があった場合は、改定後の授業料が適用されます。

◎修学・研究活動に必要な保険の加入料

安心して修学及び研究活動ができるように、学生教育研究災害傷害保険(略称「学研災」)及び学研災付帯賠償責任保険(略称「学研賠」)への加入を推奨しています。

■修士課程(2年)

学研災	1,750円	学研賠	680円
-----	--------	-----	------

学費・奨学制度

研究・勉学への意欲がありながら、経済的な理由によって本学大学院での修学が困難な学生や、優秀な学業成績・研究成果を持つ学生に学費等を支援するために、以下の奨学制度があります。

〈日本学生支援機構奨学金(貸与型)〉

奨学金の貸与月額は次のとおりです。

【第一種(無利子)】

月額50,000円または88,000円

※「特に優れた業績による返還免除」について

大学院在学中に優れた業績を挙げた場合、大学院で貸与を受けた第一種奨学金の全額又は一部の返還が免除されることがあります。

【第二種(有利子)】

月額/50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

〈岩谷元彰弘前大学育英基金(奨学金給付事業)〉

成績優秀でかつ経済的理由により修学が困難な学生に対して、一人20万円の奨学金を給付します。

※上記支援の対象者は選考により決定されます。なお、詳細については必ず、下記担当にお問合せください。

これ以外にも様々な奨学制度があります。詳細はお問い合わせください。

■入学料・授業料免除等の確認はこちらから

[弘前大学ホームページ](#) ▶ [学生生活](#) ▶ [入学料・授業料免除等](#)



学務部学生課生活支援グループ経済支援担当 TEL.0172-39-3117

入学試験

2026年度 入試日程(予定)

〈第1期募集〉	〈第2期募集〉
●出願期間 2025年7月7日(月)~7月11日(金)	●出願期間 2025年12月1日(月)~12月5日(金)
●試験実施日 2025年8月21日(木)	●試験実施日 2026年2月8日(日)
●合格発表日 2025年8月28日(木)	●合格発表日 2026年2月13日(金)

弘前大学大学院地域共創科学研究科(修士課程)の入学者の一般選抜は、「第1期」と「第2期」で実施する予定です。いずれにおいても、試験出願前に入学後の指導予定教員と研究に関する事前協議を行ってください。

2026年度 募集人員

専攻	研究領域	募集人員
地域リノベーション専攻	コミュニティデザイン	15名 (研究領域毎に半数程度)
	レジリエンステクノロジー	
産業創成科学専攻	食産業イノベーション	15名 (研究領域毎に半数程度)
	グローバルビジネス	

■募集要項請求・問い合わせ先

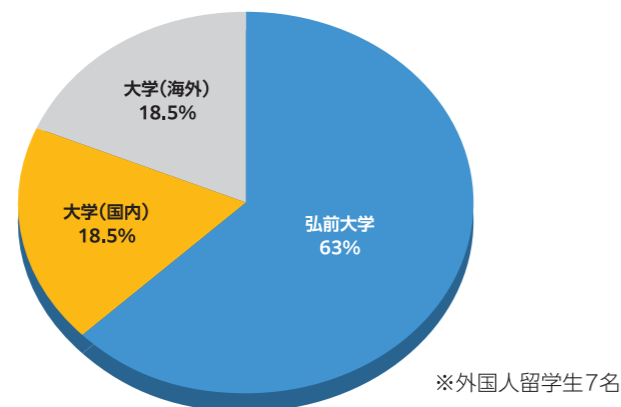
請求先	弘前大学 学務部 入試課
請求先住所	〒036-8560 青森県弘前市大字文京町1番地
電話番号	0172-39-3973 / 0172-39-3193

弘前大学入試課ホームページ
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>

請求方法等、詳細をご確認ください



令和6年度入学者(出身大学別)



新入生の声

地形の成り立ちを探ることが安全な暮らしにつながる

地域リノベーション専攻 レジリエンステクノロジー研究領域 新1年

はまだ こうき
濱田 光生 さん

青森県出身
 弘前大学 弘前大学理工学部 卒業



どのような研究であっても、大学院で学んだことを活かした職業に就きたいという思いを、学部1年生の頃から抱いていました。その中で出会ったのが今の研究室で学んでいる地形学です。これは地形の成り立ちを明らかにする学問で、今後の災害対策などにも役立てることができそうです。

実際の地形を見て理解を深めるのが地形学の魅力です。私は主に海へフィールドワークに向かうことが多く、そこで採取した岩石を高精度な顕微鏡で観察し、地殻変動の有無などを調べています。どういった時代を経て土地が形成されたのかを知ることで、地震や水害のリスクを考慮した、その地の安定性の評価につながります。青森県は三方を海に囲まれて山や湖も豊富な場所で、地形学を深く学ぶには最適な環境だと感じています。学部時代と異なり、自主性が求められる大学院では研究の自由度が高まるので、フィールドワークや室内実験を積極的に進めたいです。自分の研究の社会的意義を考えながら、学びと向き合いたいですね。

卒業後は工事の企画・設計や現地調査を担う建設コンサルタント業に携わりたいです。日本のインフラの老朽化はとて深刻で、今後いかに整備を進めるかが重要な問題になっています。地形学の観点から災害に強いインフラを構築するのが夢で、地域の人に寄り添った仕事ができればと考えています。

本学科では専門知識はもちろんのこと、学部生では接することが難しい異分野の専門家からの学びの機会も充実しています。おそらく学びを通し、社会学や工学など異分野の知識、様々な考えを持つ人との出会いを通して、多角的な視点や課題に取り組み力が育まれるのではないのでしょうか。一緒に学び、全力で未来を創造していきましょう!

マーケティングの力を地域振興に役立てたい

産業創成科学専攻 グローバルビジネス研究領域 新1年

しらとり みゆう
白取 美優 さん

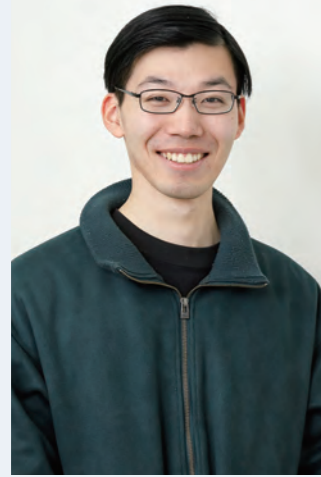
青森県出身
 弘前大学 農学生命科学部 卒業



学部時代、「御所川原」という果肉まで赤いリンゴについて、通常のリンゴとは異なる特徴をどのようにマーケティングに活かせるかを学んでおり、この研究を継続したいというのが進学を決意した理由でした。御所川原は渋みや酸味が強く、食用としては一般的ではないものの、加工した際の鮮やかな赤色が特徴的なリンゴ。学部の卒業研究では、主に市場調査や消費者の意識調査を通じて、この品種の魅力をどのように伝え、需要を創出できるかを考えました。

進学後は学部時代の研究をさらに発展させ、リンゴ赤肉品種の産業への貢献を目指した研究に取り組みたいと考えています。具体的にいうと卒論では一企業における御所川原の取り扱いについてしか調べられませんが、実際に生産を行っている農家の取り組みや、五所川原市の地域振興策、企業での製品開発の事例などを調査し、どのような市場展開が可能かを検討したいと思っています。特に、これまで学んできたマーケティングの視点を活かして、果肉の赤いリンゴ産業に貢献できる成果をあげたいですね。私の研究は地域ならではの農産物の活用に着目した内容でもあるので、農業や食品に関わる仕事に就き、地域資源を活用するための画期的なアイデアを出せるような人材になりたいと思っています。

正直なところ、大学院での研究生生活がどの程度忙しくなるか、まだ想像がつかない部分もあります。一方で学部時代に感じた課題を解決するために、より深く学びたいという熱意は変わっていません。多分野の学びにふれる中で興味・関心のあることに出会い、「もっと知りたい!」と思った先に大学院があると思っているので、好きを見つけることが学部時代では大切なこと。自分のやりたいことの軸を保ちながら学びと向き合ってください。



地域リノベーション専攻
コミュニティデザイン研究領域
2年

おうち ゆうた
大内 裕太 さん

岩手県 出身
弘前大学 人文社会科学部 卒業

地域内の「居場所」を手がかりに 住民と共に進める地域再生を考える

地域には一つの専門分野の知識だけで解決できない複雑多岐な課題があります。人口減少問題により、住民の困りごとを共に考えながら地方都市・農村を再生することもそのひとつで、これが自分のライフワークだと感じて専攻を選びました。

大学では地域運営組織の持続可能性について研究しています。従来の区長制度や町内会の在り方では、役職を持つ人の負担が大きくなっています。新たな地域運営組織を導入した北上市を対象に、成果と課題を調査しています。合併前の村単位で自走化ができる地域も出てきたことが調査を通してわかりました。誰のための研究かを明確にしたうえで、住民の方々の地域愛に直面したときに研究のやりがいを感じます。

私は北上市防団に所属し、自治会役員の他、民俗芸能「河童太鼓」の保存活動を行っています。消防団の屯所設備は古く、堅苦しい印象を受けますが、楽しい宴会を催している地域もあります。日頃から仲を深め、有事の際はポンプ車の元に集い、仕事を終えたら皆で労を労い、時には死者を悼む。これが世代を超えて100年繰り返されています。人の集う場所として機能するかは外観や設備だけでなく、使う人や目的によっても左右されるのだと感じ、持続性のヒントを得られた気がします。

将来は公務員や建設コンサルタントを視野に入れていきます。住民の発案を元に地域計画に活かす自治体もあり、大学院での学びを地域づくりに役立てられると考えています。また、学部時代のアルバイトで公園や緑地を造ってきた経験から、まちづくりという仕事には愛着を持っています。大学での学びは今後の人生設計に影響を与えます。どんなことに関心があり、30年後に何をしたいのか、考えることで理想が明確になると思います。



地域リノベーション専攻
レジリエンステクノロジー研究領域
2年

やまぐち ゆうすけ
山口 悠介 さん

北海道 出身
弘前大学 理工学部 卒業

興味を信じて学び深められる場所 コンクリートの研究で安心な社会を

進学を決めたのはコンクリートへの興味がきっかけです。授業で触れたことで些細な関心を持ち、研究を進めるうちに面白さに気づき、専門的に学びたいと考えようになりました。また、本学科では理系・文系を問わず多様な分野の知識を得られます。学んだ知識を社会で活かしたい思いがあったので、「地域課題の解決に貢献できる人材を育成する」という理念にも惹かれ、進学を決意しました。

現在はコンクリート劣化の予防保全や補修に使用される表面含浸材の影響について研究しています。表面含浸材は劣化を防ぐために使用されますが、場合によっては逆に劣化を招くことも。例えば、塩害に効果があるとされる表面含浸材が、空気中の二酸化炭素が原因で引き起こす「中性化」により、劣化が促進されるケースもあります。実験では構造物と同じ試験体を作り、表面含有材を塗布したうえで、二酸化炭素濃度を高める装置を用いて経過を観察します。

こうした影響を明確にすることは、安全な社会インフラの維持に直結しています。住宅、道路、橋、商業施設など、暮らしのあらゆる場面に関わるコンクリート。正しい補修方法を確立することで、安心な生活環境を支えることができます。専門的な知識を深めることも楽しいですが、それ以上に、自分の研究が社会の安全に貢献できることに大きなやりがいを感じています。

進学を決める際、周囲の友人が就職する中でこの道を選ぶべきか悩むこともありましたが、しかし、興味を信じて学び続けた今に後悔はありません。専門知識の向上だけでなく、物事を多角的に考える力も養うことができました。修士課程の2年間は決して短くはありませんが、学びを通じて成長できる貴重な時間。少しでも興味があるなら、ぜひ挑戦してみてください。



産業創成科学専攻
食産業イノベーション研究領域
2年

かきざき せな
柿崎 世奈 さん

北海道 出身
弘前大学 農学生命科学部 卒業

美容への興味を起点に 研究に励み可能性を広げる

当研究科は文理融合の学科であることから、様々な専門性を持つ人たちと関わることで、新たな価値観を学ぶことができると考えました。また、弘前大学農学生命科学部在学時に取り組んだ研究テーマについて引き続き追求したかったため、当時所属していた研究室への進学を決めました。

研究室では、シミの原因としても知られるメラニンに関する研究を行っています。学部3年生の頃、7個ほどの因子から、メラニンの合成を抑制する因子を見つけました。現在は、それらがどのように働き抑制につながっているのかということについて詳しく調べています。自分が見つけた因子がシミ予防に効くことを裏付けるという研究には、大変やりがいを感じています。

私は美容に強い興味を持っており、自分自身の普段のメイクアップやスキンケアで対策している現象について、細胞レベルで検討することにも面白さを感じています。また、将来的には創薬に繋げる事を想定した研究であるため、医療分野や美容分野に対する貢献の可能性も感じながら日々研究に励んでいます。将来は、人の人生にポジティブな影響を与えられる仕事がしたいと考えています。

学生生活では、バレーボールサークルに所属し、幹部として活動の進行やイベントの企画運営に携わりました。周囲の協力を得て精力的に活動した経験から、他者と協力して物事を完遂することの重要性を学び、不断の努力が周囲に与える影響を実感することができました。将来、自分がやりたいと思う仕事に就けたときに、このような経験もきっと活かせる場があると思います。

大学院に進学して深めたい知識やキャリアについて考えておくと、より充実した大学院生活を送ることができると思います。頑張ってください！



産業創成科学専攻
グローバルビジネス研究領域
2年

さとう ひるや
佐藤 大哉 さん

秋田県 出身
弘前大学 農学生命科学部 卒業

小さな農業が地方創生のカギ 農学の知識を活かし、地域社会を支える税理士に

近年、国内で農村の価値や魅力が再評価されています。学部では、農村のライフスタイルの一つである「兼業農業」に焦点を当てた研究を実施しました。1980年代以降、兼業農家は減少していますが、農業生産の担い手・地域社会の構成員として欠かせない存在です。そこで、弘前市の兼業農家を対象としたヒアリング調査を実施し、兼業農業の成立条件と兼業就農の可能性を考察しました。この研究を深めることが地域農業・地域社会の成長につながると考え、本研究科に進学しました。

現在は、学部の研究から調査範囲を広げ、小規模農業に関わる研究に取り組んでいます。農地法改正に伴い、令和5年4月から農地取得時の下限面積要件が撤廃されました。法改正により、小規模農地の取得が容易になったことが、地域農業にどのような影響を与えるのかを明らかにすることで、農業構造を再検討する第一歩になると考えています。全国的に「半農半X」などの小さな農業を支援する取り組みが拡大していることから、社会的意義のある研究にやりがいを感じています。

将来の夢は税理士です。地域社会ゼミで研究を進める中で、東京一極集中に問題意識を持ち、地方創生の実現が必要不可欠だと考えました。地方都市や農村地域への移住・定住をライフプランの選択肢にするためには、地方に魅力のある産業・企業をつくるのが重要だといえます。そこで、企業の経営に直接関わることができる税理士を目指しました。本研究科で身につけた農水産学や経営学の知識を活かし、税務・会計の専門家・税理士として地域社会に貢献します。

本研究科では、自分の専門分野以外の幅広い学問に触れることができます。一つの分野を追求することも大事ですが、専門分野×〇〇といったかけ算の発想で誰にも負けない領域をつくることにも面白さがあると考えています。様々なことに関心を持ち、学び続けてほしいと思います。



RESEARCH HIGHLIGHTS ①

個人の関心事や出来事から社会のあり方を探る



李 秀眞

コミュニティデザイン研究領域

(E-mail) leesujin@hirosaki-u.ac.jp

「超高齢社会」において各世代が経験する生活問題を、実証データを用いて把握し、私たちの生活に還元可能な政策提案をすることに重点において研究を行っています。具体的な研究内容は、家族関係を中心軸に置き、結婚選択と家族形成などの青年世代の関心事、子育て及び家事分担と夫婦関係などの長年世代の関心事、家族多様性及び単身世帯の生活などの中年世代の関心事、引退後の家事分担や夫婦関係などの高齢世代の関心事など、それぞれの世代が経験するライフイベントが家族関係や個人生活に与える影響などです。また、COVID-19のような予期しない出来事とその経験が家族生活に及ぼす影響について調べ、新たなライフスタイルの出現の可能性を探っています。家族研究と隣接学問との接点と拡張性を考慮しながら、単身世帯および多文化家族の増加と関連して家族価値発見、隣接学問との学術的交流などについても関心をもって研究を進めています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ②

人工衛星のデータを用いて大地の動きを把握する



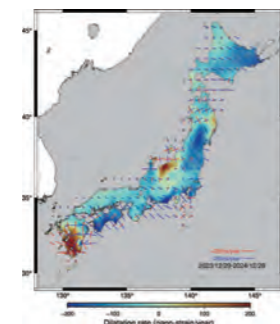
道家 涼介

レジリエンステクノロジー研究領域

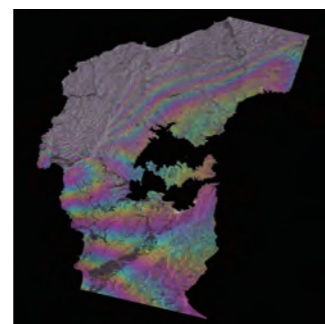
(E-mail) r_doke@hirosaki-u.ac.jp
 (Website) <https://home.hirosaki-u.ac.jp/r-doke/>

人工衛星を使った測量技術を用いて、地殻変動の研究を行っています。GNSS (GPS) はスマートフォンやカーナビなどで現在位置を知ることができる技術としてよく知られていますが、測量用の機材を用いて固定点で連続観測を行うことで、大地の動きを測量できます。観測の結果から、私たちが暮らす大地がどのように変形しているかを明らかにし、そのメカニズムや地形の成り立ち、活断層や活火山との関係について研究しています。

また、合成開口レーダー (SAR) を搭載した人工衛星のデータを解析することで、地表面をスキャンする様に面的に大地の動きを計測することができます。この技術を用いて、火山活動に伴う地殻変動や地すべりなどを検出し、そのメカニズムなどを明らかにする研究を行っています。さらに、この手法を活用することで、大規模盛土造成地の変位や、地下水の汲み上げに伴う地盤沈下などの地域・都市の課題にもアプローチしています。



GNSS データより推定した日本列島の歪速度場



SAR 干渉解析による 2024 年能登半島地震時の地殻変動



RESEARCH HIGHLIGHTS ③

食品の機能性研究と地元食材を使った加工食品開発



前多 隼人

食産業イノベーション研究領域

(E-mail) hayatosp@hirosaki-u.ac.jp

食品の機能性成分の分析や動物試験、細胞実験による機能性評価を通じて、人々の健康向上に役立つ食品を開発する研究を進めています。特に農水産物の色素成分の研究を行ってきました。一例がワカメなどの褐藻類に含まれる色素成分のフコキサンチンの摂取による抗肥満作用の研究です。また、最近では生活習慣病の予防に関与する腸内細菌や、乳酸菌の研究も進めています。弘前大学が中心となり実施している「岩木健康増進プロジェクト」の研究の結果、痩せた人の体内にはブラウティア菌という腸内細菌が多いことがわかりました。ブラウティア菌を腸内で人為的に増やし、太りにくい体質にすることを助ける食品素材について研究中です。さらに白神山地の植物から分離した「白神の森乳酸菌®」の機能性評価や、加工食品開発を企業との共同研究で進めています。東北の農水産物の新たな可能性や魅力を探り、健康向上に役立つ新しい食品の開発を通じ、地域産業の活性化に貢献することを目標にしています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ④

デザインが持つ可能性を地域のために活かす



佐藤 光輝

グローバルビジネス研究領域

(E-mail) ms@hirosaki-u.ac.jp
 (Website) <https://hirodai-wellbeing.com/m-sato/>

私の研究室では、地域に特化したデザインと地域振興に関する教育および研究を推進しています。授業やゼミでは、地域社会が直面する多様な課題を解決するためのデザイン思考を学び、実際のプロジェクトに取り組む機会を提供しています。研究指導を受ける学生は、地域の特性やニーズを理解し、それに基づいたデザインを考案するスキルを習得します。地域の文化、歴史、風土、経済状況をしっかりと考慮しながら、持続可能な解決策を見出すための能力を育成します。また、地域企業や専門家との連携を通じて実践的な経験を積むことができるので、ネットワークを広げる機会も得られます。さらに、さまざまなデザイン分野に関連する知識を習得することで、学生たちは多角的な視点を持つデザインの専門家として成長し、地域社会への貢献と個々のキャリアの発展を実現します。活動の詳細については、研究室のWebサイトで紹介しているので、ぜひご覧になってください。



修了生の声



令和5年度
地域リノベーション専攻 修了
秋田県鹿角地域振興局
農林部 森づくり推進課 勤務
山崎 由樹乃さん

在学中、私は応用地質学を専攻し、地下水の成分から活断層型地震のリスクを評価する手法について研究していました。修士論文では、ヘリウム同位体からみた能登半島群発地震を引き起こした流体の起源をテーマに調査しました。能登半島全域の井戸から温泉水(地下水)を採取し、成分を化学的な分析で継続的に実施することにより、内陸型大地震のリスクが高い地域に前もって警鐘を鳴らす可能性について探り、その研究に携わりました。

大学で地球科学を幅広く学び、自然環境の未来や人々の役に立つ研究を志し、大学院に進学しました。大学院では調査領域が広がり、地域の人々やその土地と密接に関わりながら、指導教員、異分野の先生や専門家と協働して研究を深めることができました。これらの経験は、今でもかけがえのない財産となっています。

現在、私は秋田県庁に入庁し、治山施設の管理担当者として現場での施工確認や山地災害の未然防止、災害時の早期復旧に取り組んでいます。大学院でのフィールドワークや、試料採取の際に自治体や地域の専門家と連携し、事前に打ち合わせや準備をした経験が現在の業務に活かされていると感じています。

研究は即時的な解決には繋がりませんが、採取した試料や基礎データが将来の地震予測の実現に役立つ可能性を信じて研究しました。このような思いや、大学で学んだ分野をさらに深めたい方は、大学院を通し、異なる分野のそれぞれの専門性を意識しながら、新しい知見を得て地域に役立つ研究を進められることを願っています。

就職支援

弘前大学教育推進機構キャリアセンターでは、インターンシップ、就職ガイダンス、業界研究会、各種企業説明会、就職相談、求人開拓及び情報収集等、さまざまなキャリア支援を行っています。

■就職・進路相談

専任のキャリアアドバイザーが、年間を通して相談を受け付けています。相談の対象は大学院生を含む弘前大学の学生全員で、学年の制限はありません。

■求人票等の閲覧

求人検索システム「弘前大学キャリアコミュニティ(キャリアコム)」による求人情報の公開を行っています。学内外のどこからでも閲覧・検索することができます。

キャリアセンターの利用について

学年・学部を問わず、どなたでも利用できます。

◎利用時間/月曜日～金曜日(祝日・年末年始等を除く) 9:15～17:00

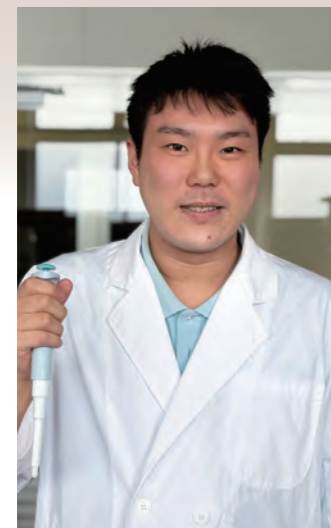
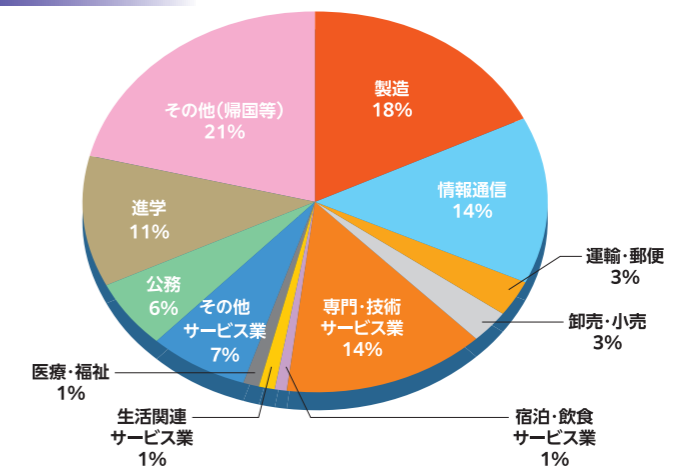
◎場所/総合教育棟1階

◎TEL/0172-39-3129 ◎FAX/0172-39-3131 ◎E-mail/scc@hirosaki-u.ac.jp

◎ホームページURL/https://career.hirosaki-u.ac.jp/



令和3～5年度修了生進路状況



令和4年度
産業創成科学専攻 修了
ホクト株式会社
開発研究部 開発研究課 勤務
荒 凜太郎さん

在学中は食品化学を専攻しており、人の健康に有益な生理機能および活性成分の探索をしていました。研究テーマは、六ヶ所村で製造されている長芋を原料とした焼酎の製造過程で生じる醸造副産物のもろみを研究対象として、もろみの持つ肥満抑制作用などについて調べていました。学部生の頃から慣れ親しんだ研究室で、指導教員や研究室のメンバーのサポートのおかげで充実した大学院生活を送ることができました。

卒業後はホクトというきのこの研究、生産、販売までを行う企業に就職し、研究員として勤務しています。研究対象は大学時代と違いますが、現在も人の健康に貢献できるような機能性研究を続け、きのこが消費者にとってより魅力的な食品になることを目指しています。地域共創科学研究科では、食品化学の分野だけでなく、商品開発やマーケティングの授業もあり、様々な学部出身の人がいるので、新たな考え方や知識に触れることができ、自分の研究を多角的に見つめ直す機会となりました。大学院で身につけた考え方は就職した現在も活かされています。

私の周りには学部の時点で研究は性に合っていない、と就職した人が多くいました。しかし、大学院を卒業して感じたことは、学部での4年間は研究の準備期間で、研究の醍醐味は大学院から始まるということです。大学院に少しでも興味があって、迷っているのなら進学するべきだと思います。様々なカリキュラムに沿って学ぶことができる機会というのは大学のときだけです。きっと大学院での経験はどんな進路になろうと活かせることが多くあるので、今しかできないチャンスだと思って取り組んでほしいです。